

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、平成 16 年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 44 件

	手術名	件数
1	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	11
2	子宮頸部円錐切除術	7
3	腹式単純子宮全摘術(ATH)	7
4	膣式単純子宮全摘術(LAVH)	4
5	附属器腫瘍摘出術(開腹)	4
6	膣式単純子宮全摘術+膣会陰形成術	3
7	子宮内膜ポリープ切除術	2
8	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	2
9	子宮内膜搔爬術	1
10	膣壁腫瘍摘出術	1

2. 産科診療実績

総分娩数 390、出生児数 440(死産 3)、多胎分娩数 46(双胎 42、品胎 4)でこの年度の帝王切開率は 35.4%でした。以前に比べると若干増加傾向にありますが、原因の一つとして母体年齢の高齢化が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(45%)を 35 歳以上の妊婦が占め、40 歳以上の妊婦では 12%を占めますが、当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膣分娩や双胎妊娠の経膣分娩、未熟児や低置胎盤の経膣分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016年10月より、毎週火曜日と水曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。

● 研究業績

1. 論文

- 1) K. Tada; Y. Miyagi; K. Nakamura; M. Yoroazu; E. Fukushima; K. Kumazawa; M. Nakamura; M. Kageyama. The Optimal Prepregnancy Body Mass Index for Lactation in Japanese Women with Neonatal Separation as Analyzed by a Differential Equation. Acta Medica Okayama.75(1):63-69.2021 Feb
- 2) 施設規模によって妊娠 41 週以降の周産期予後に差は生じるか
橋本一郎, 赤堀洋一郎, 井上誠司, 楠目智章, 丹羽家泰, 多田克彦
現代産婦人科 2019 68 77-82 2020年6月1日
- 3) 母親の側からみた母乳育児の科学的エビデンス -母乳育児と肥満-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020 14 60-67 2020年7月1日
- 4) 母乳育児と母親のこころの問題 -母親のニーズと不安の原因-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020; 14 80-88 2020年7月1日
- 5) 妊婦, 授乳婦における薬に対する意識調査
平澤ゆみこ, 上野杏菜, 羽藤加奈恵, 田頭尚士, 山本 宏, 常久幸恵, 多田克彦, 中村和恵
日本小児臨床薬理学会雑誌 2019 32 125-132 2020年8月1日
- 6) 無症候性の単胎前置胎盤症例の予定帝王切開を妊娠 38 週に設定する妥当性の検討
吉田瑞穂, 塚原紗耶, 熊澤一真, 萬 もえ, 大岡尚実, 沖本直輝, 立石洋子, 中村和恵, 中村 信, 影山 操, 多田克彦
日周産期・新生児会誌 2020 56 236-241 2020年9月1日
- 7) 双胎間輸血症候群とその周辺疾患に対するレーザー治療の現状と未来への展望
多田克彦, 佐世正勝
日本新生児成育医学会雑誌 2020 32 73-76 2020年10月1日
- 8) 羊水量増加症例における妊娠糖尿病発生率に関する検討
瀬村肇子, 多田克彦, 沖本直輝, 吉田瑞穂, 塚原紗耶, 立石洋子, 熊澤一真
現代産婦人科 2020 69 33-38 2020年12月1日
- 9) Q59 前置胎盤で早産治療を行う際の注意点は? 中井章人, 松田義雄, 大槻克文編集. 早産のすべて -基礎から臨床, DOHaD まで-
多田克彦
株式会社メジカルビュー社, 東京:2020 199-201 2020年12月1日
- 10) 分娩時大量出血における希釈性凝固障害の臨床データの特徴: 多施設共同後ろ向き症例集積研究
多田克彦, 宮木康成, 安日一郎*, 吉田瑞穂, 萬 もえ, 前川有香*, 大蔵尚文*, 川上浩介*, 山口建*, 小川昌宣*, 兒玉尚志*, 野見山 亮*, 水之江知哉

* NHO 小児・周産期ネットワーク共同研究グループ

日周産期・新生児会誌 2020 56(3) 417-423

2020 年 12 月 2 日

2. 学会発表

- 1) 双胎の切迫早産症例に対し子宮頸管ペッサリー留置後に多量出血を伴う腔壁裂傷を認めた 1 例

中村一仁

第 72 回日本産科婦人科学会

2020 年 4 月 25 日

- 2) 胎児輸血を施行した一例と安全な輸血量に関する考察

相本法慧

第 72 回日本産科婦人科学会

2020 年 4 月 26 日

- 3) フィブリノゲン値および FDP 値からみた分娩時大量出血症例における産科 DIC スコアの妥当性の
検証

多田克彦

第 42 回日本血栓止血学会

2020 年 6 月 18 日

3. 講演

なし